

口頭発表 | 口頭発表

■ 2023年5月27日(土) 9:00 ~ 9:45 | 会場 (14号館145B)

被服 - 心理・意匠・服飾

座長：好田 由佳 (梅花女子大)

9:00 ~ 9:15

[2L-01] 1920年代における日仏交流からみたファッションプレート (1)

複製芸術としてのポショワールと合羽摺

○西川 良子¹、井上 裕之¹、徳山 孝子¹ (1. 神戸松蔭女子学院大)

9:15 ~ 9:30

[2L-02] 1920年代における日仏交流からみたファッションプレート(2)

ジョルジュ・バルビエが描いたファッションデザイン

○井上 裕之¹、西川 良子¹、徳山 孝子¹ (1. 神戸松蔭女子学院大学)

9:30 ~ 9:45

[2L-03] 1920年代における日仏交流からみたファッションプレート(3)

図案家たちが影響を受けた身体とファッション

○徳山 孝子¹、西川 良子¹、井上 裕之¹ (1. 神戸松蔭女子学院大)

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:00 ~ 9:45 | L会場 (14号館145B)

被服 - 心理・意匠・服飾

座長：好田 由佳 (梅花女子大)

9:00 ~ 9:15

[2L-01] 1920年代における日仏交流からみたファッションプレート (1)

複製芸術としてのポショワールと合羽摺

○西川 良子¹、井上 裕之¹、徳山 孝子¹ (1. 神戸松蔭女子学院大)

キーワード：ジョルジュ・バルビエ、ジャン・ソーデ、アール・デコ

「目的」

1908年にクチュリエのポール・ポワレがポショワールという手彩色複製法のイラストレーションによるファッションアルバムを出版して以来、この複製法はフランスのファッション誌において人気を博した。ジョルジュ・バルビエはアール・デコ期に多くの作品を輩出したイラストレーターであるが、ファッションプレートという誌上で頭角を現した背景には、ポショワールの発展に尽力した摺師のジャン・ソーデの功績が大きい。本研究では、現存するバルビエやソーデの資料や文献をもとに、彼らのポショワールへの含意を理解することを試みた。

「方法」

1925年にソーデが執筆したポショワールに関する書籍である『*Traité d'Enluminure d'Art au Pochoir*』を紐解き、それを受けてバルビエが1928年に美術工芸専門誌「*Arts et Métiers Graphiques Paris 3*」に寄稿した記事である「Pochoir」からバルビエの執筆意図を探った。

「結果」

バルビエは、記事中にポショワール技法と類似した合羽摺の画集である北尾雪坑斎の『彩色画選』について言及しているが、この画集には絵師と摺師、版元の組織の関係性が明記されていた。これは、ポショワールとの技術的類似点を指摘しただけではなく、ポショワールのクオリティと人材を維持するための組織の重要性を提示するためでもあったことが読み取れた。

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:00 ~ 9:45 | L会場 (14号館145B)

被服 - 心理・意匠・服飾

座長：好田 由佳 (梅花女子大)

9:15 ~ 9:30

[2L-02] 1920年代における日仏交流からみたファッションプレート(2)

ジョルジュ・バルビエが描いたファッションデザイン

○井上 裕之¹、西川 良子¹、徳山 孝子¹ (1. 神戸松蔭女子学院大学)

キーワード：ジョルジュ・バルビエ、アール・デコ・ファッション、ファッション・プレート

目的

ジョルジュ・バルビエはアール・デコを代表するイラストレーターである。アール・デコ期に当たる1920年代のファッションはコルセットからの解放が行われ、ストレートなシルエットと極力装飾を排したデザインが特徴とされる。それらは活動的で自立した女性のファッションとして紹介される。一方、バルビエのファッション・プレートに描かれたファッションは、装飾的であり、トレーンなどの非活動的な要素が目立つ。本研究ではその差に着目し、バルビエが描いたファッション・デザインの位置付けについて考察することを目的とした。

方法

「ガゼット・デュ・ボン・トン」誌でジョルジュ・バルビエが描き、なおかつそのファッション・デザインを提供したメゾン名が記載されているファッション・プレートを調査した。デザインは衣服の形態、装飾、色彩について分析をした。バルビエが描いたメゾンとして、

「WORTH」、「BEER」、「LANVAN」などが挙げられる。

結果

調査した内容からは、ジョルジュ・バルビエが描いたファッション・デザインは、ストレートなシルエットでありながらも装飾的であり、色彩豊か、そしてトレーンを引くものが多いとわかった。これらはファッション・デザインの変革を迎える中で、パリ・モードの伝統的な価値観を保とうとしたデザインといえる。バルビエのファッション・プレートは、アール・デコ・ファッションの諸相を描いた貴重な資料であるといえる。

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:00 ~ 9:45 | L会場 (14号館145B)

被服 - 心理・意匠・服飾

座長：好田 由佳 (梅花女子大)

9:30 ~ 9:45

[2L-03] 1920年代における日仏交流からみたファッションプレート(3)

図案家たちが影響を受けた身体とファッション

○徳山 孝子¹、西川 良子¹、井上 裕之¹ (1. 神戸松蔭女子学院大)

キーワード：モダン・ガール、雑誌「女性」、「ガゼット・デュ・ボン・トン」誌

目的 日本では、いつ頃からファッションプレートが見かけられるようになったのであろうか。関西から出版された雑誌「女学生画報」があった。のちに中山太陽堂(化粧品会社)が買収して、雑誌「女性」として改題し、クラブ化粧品の宣伝に利用した¹⁾。本研究は、モダン・ガールと言われた女性美を雑誌「女性」を用いて分析するとともに、図案家が描いた女性の身体とファッションの関係についてファッションプレートから模索した。

方法 雑誌「女性」(プラトン社刊)は、1922(大正11)年5月号～1928(昭和3)年5月号までの通巻72冊、出版された。図案家は、山六郎や山名文夫などである。ここでは、雑誌「女性」を用いてモダン・ガールを分析するとともに、図案家が描く表紙と雑誌「ガゼット・デュ・ボン・トン」のファッションプレートを比較した。

結果 雑誌「女性」は、小説、社会風俗、生活文化、芸術などあらゆる角度から新しい女性たちを評論、解説した。その表紙には、美しい西洋女性が描かれた。図案家たちは、新しい女性の表現をフランスのファッションプレートに重ね合わせたのである。今までにない曲線で表現される肉体美、ファッションの流行を感じるドレス、ライフスタイルなど、日本では見たことのない繊細なデザインや鮮やかな色彩、デザインの構図に新しい女性像を託したのである。

[文献] 1) 山名文夫；『体験的デザイン史』ダヴィッド社,p.3 (1976)